

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2012.1

vol.69



新年明けましておめでとうございます。

旧年中はいろいろご支援いただきありがとうございました。本年もまた変わらず御指導、ご支援いただきますようお願いいたします。

さて、昨年は3月11日の東日本大震災、引き続き福島原発事故という未曾有の大災害に見舞われた年でした。附属看護学校の終業式を終え、病院に帰り何気なくテレビをつけると、まるで映画の一場面のような津波の襲来に目が釘付けになってしまいました。後々の報道を見ると、如何にすさまじいものであったか想像を絶する被害としか言いようのないものでした。未だに行方わからない方があるとのこと、被災者の方々に心から哀悼の意を表すると同時に、早期の復興を願っています。

私たちも機構の要請で5人の医療班を結成し、3月21日から6日間、九州からの第2陣として被災地の医療の応援に派遣しました。福島第一原発から直線距離にして60kmあまりの地域での活動で、不安のある中5人はよくその責任を果たし、少しでも被災地の方々の役に立てたのではないかと思います。被災地の状況を実際に目にし、災害地での医療を経験したことは彼らにとっても大切な財産になったことと思いますが、5人の勇気と努力に感謝します。

津波による原発の事故は政府や東電の不手際もあり、何が真実なのかわからぬまま経過しているように思えます。収束には今後何十年もかかるのでしょうか。川内に原発をかかえている県民としては他人事ではないように感じます。

さて、昨年の病院は1月8日、第1回目の心臓血管市民公開講座を行いました。500人を超す方々においていただき、これからも続けて行きたいと考え、今年は3月に開催する予定です。緩和ケア研修会は1月に4回目、脳卒中市民講座は6月に9回目を無事終了しました。また、4月には皆越統括診療部長を会長として日本心エコー図学会を、8月には循環器科の中島医長を会長として日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会を主催しました。11月には城ヶ崎臨床研究部長が米国心臓協会学術集会に座長として招かれました。学会のことは個人的な活動の賜物ですが、一緒に働いている私たちにとっても誇れることと思います。診療面ではNST、ICTに加えRST（呼吸器サポートチーム）も活動を始めチーム医療が根付いてきています。

本年は7月1日稼働を目標に電子カルテを導入します。現在準備委員会を作り鋭意準備中です。導入前後ご迷惑をおかけするかもしれませんがお許しくださいますようお願いいたします。今後とも地域に必要とされる病院を目指して頑張っていくつもりです。よろしく御指導御鞭撻のほどお願いいたします。

（院長 山下 正文）

幹部年賀状



副院長
花田 修一

明けましておめでとうございます。

循環器、癌、脳卒中に関し、いつも多くの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。

さて、昨年は鹿児島では久しぶりの大雪に始まり、桜島の記録的な噴火回数に、新燃岳の噴火も加わりました。国内では3月の東日本大震災次いで福島原発事故と次々と重大な事が続きました。当院からも震災直後に5名の職員が被災地の医療応援に出ました。その後の報告会で、現地を見た我々の仲間から被災地の状況を直接聞くことで、いかに大変だったか実感しました。新年を迎えても被災地ではまだ多くの人々が不自由な暮らしを送っておられるようです。一日も早い復興を祈りたいと思います。

一方、3月から動き出した九州新幹線は順調な滑りだしをみせ、観光客の増加も期待通りのようです。危惧した鹿児島の医療界への影響は、今のところあまり目立ちません。しかし、新幹線に乗車すると福岡まで1時間台、大阪まで3時間台という便利さを実感します。Drヘリの運行も始まり、県全体の救急医療の体制整備も進みつつあります。当院としても、循環器、脳卒中の救急体制の整備（両疾患を中心とする救急部の設置）と同時に、癌系の診療体制を含む日常の各医療機関との連携を充実していくべく努力したいと思っています。本年も一層のご指導、ご支援よろしくお願い致します。



統括診療部長
皆越 眞一

新年明けましておめでとうございます。未曾有の災害を経験して迎える新しい年に当たり、皆様におかれましては、改めて医療従事者としての使命感を強くされておられるのではないのでしょうか。昨年は九州新幹線が開通し、年末にはドクターヘリも就航し鹿児島の医療も少なからず変化し始めた年でした。そのような中で、鹿児島県の医療には、さらなる心血管疾患に対する医療施設の強化や専門医育成への医療環境の整備、臨床研修医確保への総合病院の整備、さらには医療機関同士の連携強化などが期待されています。

当院は6年前に鹿児島医療センターと名称を変え、心・血管疾患とがんを含む病院へと舵を切りました。九州循環器病センターとしての期間が長かったこともあり、頭から足の先に至る内科・外科の血管疾患に対し、急性期・慢性期を問わず24時間の臨戦態勢で対処してきました。最近では循環器内科にablation治療や大動脈ステント留置術なども加わり内容も一層充実しつつあります。脳血管領域でも急性期治療を積極的に行っており、救急患者も急激に増加しています。心臓外科では最近の大動脈解離など大動脈外科が増えてきている現状は皆さん衆知のところですが、それでも需要に応えきれていない現状がある一方、病院経営の面では常に苦戦を強いられ、仕事量の割にはその評価が低いというジレンマの中にあります。

これからは、これまでの血管医療の実績の上立った救急医療とがん医療を築きつつ多様性のある病院を目指してゆくべきではないでしょうか。理想を高く掲げ、鹿児島県の医療の進歩に尽くしてゆきたいものです。当院にはそれを受けて立つ十分な潜在力があると思います。今年もどうかよろしく願い申し上げます。



臨床研究部長
城ヶ崎 倫久

新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は東日本大震災という未曾有の災害が日本を襲い、福島第一原発の事故が続きました。日本が完膚なきまでに打ちのめされたと言ってもいい年でした。それに対抗するかのように「がんばろう!日本」の掛け声のもとに「絆」という字がクローズアップされています。世の中で起きていることがすべて必然であるとすれば、我々はここから何を学べば良いのでしょうか。今年の正月はそんな事を考えながら過ごしました。

さて、当院の臨床研究部は平成11年に開設されたので、12年が経ったこととなります。干支が一巡したわけですが、この間に鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先端医学学講座の生理活性物質制御学分野として連携大学院になりました。また、これまでの実績が認められ文部科学省の科学研究費補助金を申請できる施設にもなりました。臨床研究の推進が当院の診療の質の向上に、ひいては鹿児島全体の診療の質の向上に繋がるものと信じて、これからも臨床研究の推進に邁進していきたいと考えています。今年もどうか臨床研究部をよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室長
濱田 陸三

明けましておめでとうございます。

皆様良いお正月をお迎えのことと思います。昨年は国の内外に大事件が続き暗いことばかりで過ぎたような一年でしたが、一面では「絆」で代表されるように困難を乗り越える日本の底力を確認することもできた1年でした。

明けない夜がないように今年はそろそろ良いことがありそうな気もしていますが、医療界を取り巻く環境は依然として厳しく、医学的イノベーションのみならず、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）への対応など医療界全体が大変換期のさなかにあります。こうしたなか地域医療連携室の役割も益々大きくなってきておりますので、どうぞ今年もよろしくご支援の程お願い申し上げます。

さて、昨年は当院連携室便り「鹿児島医セン」をご支援頂き有り難うございました。お陰様で毎月発行することが出来ましたが、今年もまた毎月お届けするつもりですので、昨年同様、診療の合間の息抜きなどにご利用頂ければ幸いです。



事務部長
四元 正明

2011年から2012年以降へ

2011年は歴史(東日本大震災、なでしこジャパンFIFAワールドカップ世界一など)に記憶され、後世に語り継がれる年になりました。師走の2011年の言葉に「絆」が選ばれたのも当然であり、これからバトンを渡していかななくてはなりません。

被災に遭った気仙沼市立階上(はしがみ)中学校卒業式答辞を述べた梶原君は「階上中学といえば防災訓練を十分にした学校として内外から高く評価され十分に訓練した私達でした。自然の力には人間の力は余りにも無力であり、私達から大切なものを奪っていきました。天が与えた試練にしては余りに惨いものでした。辛くて悔しくてなりません。しかし苦境に遭っても天を恨まず運命に耐え、助けあっていくのが私達の使命です。」と涙ながらに答辞を述べています。

この梶原君の「しかし苦境に遭っても天を恨まず運命に耐え、助けあっていくのが私達の使命です。」という未来への絆のメッセージが強く印象に残りました。

私達、鹿児島医療センターの2011年は翻ってどうだったのでしょうか。経営的には決していい年とは言えませんでした。

2012年7月1日に電子カルテ移行を控え、それに費やすエネルギーは大変なものです。付随して導入準備・習熟訓練、関連の諸工事等もあり職員の負担は大きいと思います。

また、循環器、脳卒中、がんの3本柱の急性期医療機関としての取り組みとして大事なことは経営基盤の強化、魅力ある病院作りと地域医療連携の強化を目指さないとはいけません。

青臭い言い方もかもしれませんが、職員が一丸となって同じ方向に向かって取り組まなければこの苦境を乗り越えられないと思います。同じ方向性という言葉には第35代米国大統領ジョン・F・ケネディの大統領就任演説の1節に「アメリカ国民諸君。国家が諸君のために何をなすうるかを問うのではなく諸君が国家に何をなすうるかを考えよ。」という言葉があります。

アメリカ国民諸君を「職員」に、国家を「病院」に置き換えた時に私達は互いの「絆」で同じ方向性を持った気持ちで2012年以降を目指す第一歩の年と考えませんか。



看護部長
中重 敬子

新年を迎え、看護部から御挨拶申し上げます。

昨年のような出来事や健全経営の観点から、今年の看護部のテーマは「節約」と「戦略」と決めました。7月の電子カルテ導入に伴う業務、システムの構築など検討ばかりに終わるのでなく、いかにして効率よく機能的にしていくか戦略を立てて実践して参ります。また、当院の使命としての急性期医療を、地域医療にもっと貢献すべき体制に持っていくための、看護部の組織強化を図ることです。

また、昨年集中的に開催した「循環器」「脳卒中」「がん」の3領域のエキスパートナース研修は、院外研修生からも好評だったので、今年もさらに、11分野12名の認定看護師活用の向上を図り、充実させたいと考えます。秋に予定しておりますので、院外からも多数の受講者をお待ちいたします。

今年の干支は「辰」。個人的ですが、いよいよ5回目の年女!第4コーナーを回りラストパートの年になりました。辰年の人は、果敢にチャレンジする「勇氣」と「不可能を可能にする力」があると、ある論文にありました。私もあやかって、今年遭遇するかもしれない困難なことにも、看護部が一丸となりチャレンジ精神で乗り切りたいと思います。今年もよろしくお願い申し上げます。

鹿児島医療センタークリスマスコンサート



クリスマスコンサートが今回で開催8回目を迎えました。昨年は玄関正面がステージ側でしたが、今年は中庭を憩いの場として整備を行い、クリスマスを彩る電飾を前面に華やかなステージを設営することが出来ました。

コンサート開会式では、医療サービス向上委員会副委員長の園田医局長と山下院長から患者様への癒しのあいさつのお言葉をいただき、まずオープニング曲はサザンウインド吹奏楽団の軽快な演奏で始まりました。クリスマスコンサートプログラムのトップバッターは、つくし保育園児達で元気いっぱいの歌を披露していただきました。

歌の後にはサンタさん(花田副院長?)からプレゼントをもらってみんな満面の笑顔でした。2番手はスイートピーさんによる美しくも荘厳とした、クリスマスのイメージにぴったりと合う歌と演奏が続きました。歌詞カードを広げて会場の患者様と一緒に「むねIPPAI」を歌いました。3番手は毛利先生のピアノ演奏で、ゆったりとした時が流れるような曲で、会場の患者様からたくさん拍手が沸き起こりました。4番手は看護学生さん達の意気のぴったりとあったコーラスで楽しい曲とともに全会場が盛り上がりました。そして5番手は研修医秘書の前田さんの教え子達による新体操で、技のきれ、統一された演技に圧倒され会場からは驚きの歓声があがりました。ラストを飾るのはサザンウインド吹奏楽団による演奏で、「マルマルモリモリ」といった元気の湧く曲、きよしこの夜といった静かなクリスマスをイメージの曲までバラエティーにあふれて楽しませていただきました。

そしてコンサートの余韻冷めやまない中、患者様並びに御家族にティーパーティの会場に移っていただきました。調理師さん力作による見事なデコレーションスイーツデザートとコーヒー・お茶をゆっくり堪能していただきました。

クリスマスコンサート全体を通じて、患者様へのおもてなしが、細部に渡って行きとどかぬ面もあったかもしれませんが、職員皆少しでも療養の糧になっていただければとの思いであります。今後も微力ながら職員一同努めてまいります。

最後になりましたが、ご出演していただいたサザンウインド吹奏楽団、つくし保育園の園児達、スイートピー、毛利先生、新体操の少女方々にお礼申し上げます。

またクリスマスコンサート、ティーパーティ準備をしていただいた皆様にもこの場を借りて感謝いたします。



新任紹介



麻 酔 科
レジデント

とみなが まさふみ
富永 雅文

12月より麻酔科で勤務させて頂いております。これまで大学病院や市中病院で手術麻酔やICU業務を中心に経験を積んでまいりました。まだまだ若輩者ですが、患者様が周術期を少し

も穏やかに過ごせるようサポートしていきたいと考えております。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

循環器合同カンファレンスへのお誘い

当院では、毎週月曜日午後6時から手術適用症例などについて、循環器内科・心臓血管外科・麻酔科・リハ科など合同で症例検討会を開いています。オープンですので治療方針等について悩んでいらっしゃる症例がありましたら提示していただき、一緒に検討できればと思います。遠慮なくご参加お願い致します。

問い合わせ先

鹿児島医療センター 地域医療連携室

電話 099-223-1151 (内線 7344) FAX 0120-334-476

2 月看護研修のご案内

主催 鹿児島医療センター看護部教育委員会

感染対策研修会 当院の現状と感染対策

- 日 時：平成24年2月24日（金）18時30分～19時30分
- 場 所：大会議室
- 講 師：感染看護認定看護師 渡辺 真裕子
- 対象者：医療関係者

※参加ご希望の方は準備の都合上、各コース3日前までに企画課（松尾）までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

電話 099-223-1151 (内線 7303) FAX 099-226-9246

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
昨年は様々な出来事で歴史に残る一年となりました。私個人としても被災地支援に行くなど記憶に残る一年でした。年末には、一日ではありますが普段、様々な土地に住む家族が数年ぶりに集まり、家族の絆を感じた年末を過ごすことができました。

さて、今年は鹿児島医療センター並びに当地域医療連携室にとって激動!?の一年となります。地域の医療従事者の皆さまにとってお役にたてるよう、スタッフ一同頑張っていきますので、今年もよろしくお願い致します。

(担当:井上)

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 (代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246
http://www.kagomc.jp 脳卒中ホットライン ▶ **090(3327)5765**

【地域医療連携室】濱田・今泉・永重・井上・神崎・森・中島・吉留・木ノ脇・水元・酒井
直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。

